

誰でも誘える安全で安心なロウイングに

ボート人口については、早くからこの問題に腐心してきた人もいれば、「もっと少なくて強い国や競技もある。少数精鋭が良い」と思う人もいます。地域によっては増加の例さえあります。「減る時があれば増える時もある」との楽観視もありますが、現実には、周期の一部ではなく、無策では早晚、全域的な不可逆的衰退に陥ると思います。現実を認識し、アイデアを交換し、明るい未来への道を見出しましょう。

「ボートは選ばれた者のスポーツ」でしょうか？ 厳しい練習に耐え抜く肉体と精神が必要？ 実践者にとって確かに自負するところもあるでしょうが、プライドの高さや先鋭的側面だけでは、排他的で狭い世界に終わります。「そして誰もいなくなった...」では、未来への責任を果たしているとは言えません。指導者テキストの題目でもある、「Rowing For All」の重さを噛み締めたいものです。誰でも楽しめるスポーツにすることが、選ばれた者(笑)の使命です。そこから、より多くの人々が成長し、競技スポーツ追及の可能性も広がります。多くの人を、この素晴らしいスポーツに招き迎え、さらにこのスポーツが、社会全体のモラルやマナーさえ先導し変えていくことで、ロウイングに新しい(否、かつての)輝きが生まれます。



ドイツではどんな精緻な強化システムがあるのかと思っていたら、「誰もがボートを身近に楽しめる環境こそ重要だと気づかされました。艇の種類も豊富です。(2002年ハノーバー訪問より)

また「普及」が、競技力向上の「手段」としてあるのではなく、普及それ自体に意味・目的があるとの認識も大切です。別の某スポーツでジュニア育成の話聞いたとき、それが一握りのトッププロ養成のための手段だけに聴こえ、不快と違和感を覚えたことがあります。

安全との関係も密接です。人口減少でも安全技術の継承の問題を、また増加でも未熟な初心者や健康リスク者の問題が伴います。人口増大は、安全のことも慎重に考えていかなければなりません。なお安全施策を精力的に進め、アピールすることで、安心して入門できるスポーツのイメージを増殖させられます。

物理的な安全以上に、最近気にかかっているのが、「心の安全」です。幸い、ロウイングではこれまで虐待、暴力的トレーニング、セクハラといった問題は起きていないと思いますが、もしかしたら一部では...とも心配しています。日本体育協会はすでに倫理に関するガイドラインを発表し、他の競技団体でも同様のものを策定したところがあります。ボート界がこの種の指針を整備していないのは、ボートに携わる紳士淑女にはこの種の問題が発生し得ないとの認識からでしょうか。しかしモ

ラル・ハザードの危惧される今日、「ボートだけは」とか、「かえってあらぬ疑念を生む」との発想ではなく、予防措置を含め、この問題に今後重点的に取り組んで欲しいと思います。心の安全も、誰もが集うスポーツに不可欠です。

太田川BCは、多様な漕歴の出身者で構成され、また初心者を歓迎するクラブですが、少なくとも初心者育成ではまだ十分に成功していません。別の試みとして今、太田川水域の各RCを「親」にした新しいクラブの設立を模索しています。地域市民のための初心者ボート教室と、漕ぎたいが現役に気兼ねしているOBのためのクラブです。既存学校クラブからの将来の「シフト」の可能性の模索も含んでいます。構想を詰めている段階ですが、ぜひ今年スタートさせたいと考えています。

ボート協会への提案の一つは、新しい「試み」への積極的な挑戦です。既存制度にそぐわず、リスクも多いかもしれませんが、様々な意見・提案に真摯に耳を傾け、可能性をさぐり、アイデアを試行し発展を見出す、勇気と心のゆとりが大切です。以前採用されなかった要望(例えばコックスの性別不問など)にも検討・再考の余地があるでしょうし、混成クルーなども、(時限的試行など)手はあるはず。少なくとも協会のそういった検討、前向きな姿勢は、現場に伝わり、再評価と理解・協力へとつながるでしょう。

将来的には、日本中、世界中どこへいっても安心・手軽にボートが漕げる、そんなネットワークが作れないかな？と夢を練っています。これについてはまたの機会に。不幸中の幸い(笑)、小さなロウイング社会です。みんなで知恵を絞り、和気藹々やって、良循環を加速させていきましょう。



未来を担う子供たちに楽しいボート体験を

氏名	小沢哲史 (Tetsushi Ozawa)
出身県	広島県
生年月日	1957年 6月 3日
所属団体・役職	太田川ボートクラブ (安全担当), 広島工業大学漕艇部 (監督), 日本ボート協会・医科学委員
漕歴	広島皆実高校(舵手) ~ 太田川BC (1 × 他)
指導歴	広島皆実高校, 広島修道大学, 広島県・強化部, 太田川BC, 広島工業大学

